児童に見られるつまずき

　十の位を１が１０集まったまとまりとしてとらえることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　数え棒で問題場面を表したり、数え棒を用いた操作と式を関連付けて説明させたりすることで、１０のまとまりを意識しながら計算の意味を考えられるようにする

指導事例集ｐ．１７

１　学年・単元名　　第１学年　100までのかずのけいさん(数と計算領域)

２　単元目標

　　何十を10のいくつ分とみて、計算の仕方を考えることができる。

３　単元の内容

　　・何十たす何十の計算

　　・何十ひく何十の計算

**・何十何たす何の計算**

　　・何十何ひく何の計算

４　本時の目標(①教科のねらい　②学び合い)

　①100までの数の計算ができる。

　②10のまとまりを意識しながら計算の意味を考えることができる。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階  配時 | 学習活動 | 手立て（・）と評価の視点（☆教科　★学び合い）  **つまずきに対する手立て（◆）** |
| 見通す（８） | １　本時の問題を知り見通しを立てる。  ・式は23＋5になる。  ・23＋5を計算するためには、数え棒を使ったらできる。  2３＋５の　けいさんの　しかたを　かんがえよう | ・問題文を全員で読ませ、問題場面を把握させる。  ・前時までの数え棒を使う活動を振り返る。 |
| 取り組む・学び合う（２５） | ２　数え棒を使って考える。  ・10が2つとばらが3つで23と考える。  ・10のまとまりとばらで考える。  ３　計算の仕方を説明する。  ・ペアで交流する。  ・クラスで交流する。  参考：授業の様子  ４　適応問題を解き、説明する。 | ・10のまとまりとばらの数を意識させ操作するようにする。  ◆**10本のまとめた数え棒とばらの数え棒から、何十を10のまとまりとして考えさせる。**  ・ペアで数え棒の操作を確認する。  ★ペアで説明するとき、ペアが指差す数え棒や顔を見ながら聞いたか。  ◆**「10のまとまり」「ばら」「ばらどおし」のキーワードを使うことで、数え棒の操作と式を関連させて説明させる。**  ◆**十の位と一の位を色分けし、計算の手順を明確にする。**  参考：ノート  ☆数え棒を用いた操作と式を関連付けて説明し、10のまとまりを意識しながら、何十のたし算やひき算の意味が理解できたか。  ・ペアで発表させ、活動頻度を高める。 |
| まとめる（８） | ５　本時の学習内容を使って挑戦問題を解く。  ・27－3の場合は。(ひき算)  ・23＋5や27－3の計算は、ばらの棒をたしたり、ひいたりして考えるとよい。 | ・前までの問題と同じように27を１０のまとまりとばらに分けて考えさせる。  ☆27－3の計算のしかたを説明できたか。  ★ペアで説明するとき、ペアが指差す数え棒や顔を見ながら聞いたか。 |
| 振り返る（４） | 6　学習の振り返りをする。  ・はげみカードに記入する。  参考：はげみカード | ・23＋5の説明をはげみカードに書かせることで、学習内容について具体的に振り返らせる。 |